

Ⅲ 各学年の授業実践例

1 1 学年

(1) はじめに

1年生の児童は、男子19名、女子4名、計23名である。授業中の学び合いの場面では、友達の話を聞き、自分の考えを進んで発表できる児童が多い。しかし、自分の考えをもちながらも、発表の音が小さかったり、うまく発表できなかつたりする児童もいるため、個別指導を重視してきた。また、児童がお互いに安心して楽しく学習できる環境作りを目指すとともに自分の考えが伝えられる授業づくりを進めてきた。算数の学習では、基礎基本を重視し、操作的な活動を多く取り入れた授業づくりを心がけた。ここでは、発展的な学習の場面において、アイテムの問題を使って答えに着目した計算式を考えさせる問題と計算カードを使った活動を取り上げる。自分の考えに基づいた操作活動を行うことにより、数の規則性を見つけるおもしろさに気付くであろうと考えたからである。

(2) 授業の実践例

授業の視点

たし算の学習の発展として、答えに着目して計算式を考えたり答えごとに計算カードを集めたりすることは、くり上がりのたし算の理解を深めるために有効であろう。

① 単元名 たしざん（カードでれんしゅうしよう）

② 本時の学習

(ア) ねらい 答えに着目した計算式を考えたり見つけたりしてたし算をすることができる。

(イ) 主な評価の観点及び評価規準

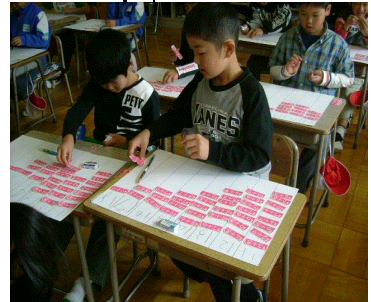
関心・意欲・態度 計算カードを使った練習に取り組もうとしている。

表現・技能 くり上がりのあるたし算の答えに着目して、計算が確実にできる。

(ウ) 展開

学 習 活 動	時間	学習活動への支援及び留意点	評価項目
1 既習の学習を確認する。 ○10に対する補数を元気よく言う。 ○くり上がりのたし算の復習をする。	5	<ul style="list-style-type: none"> 数カードをもとに既習の学習で声出しをして集中力を高めさせる。 たして10になる2つの数を素早く言えるように声をかける。9と1で10、8と2で10など 9+2、8+6、7+9などの計算の復習を全体で確かめさせる。 	
2 学習課題をつかむ。 ○アイテムの「考える力をつけよう」の学習①を全員で考える。		<ul style="list-style-type: none"> 注意力がそれる児童に配慮し、課題のポイントを確かめ合わせる。 あてはまる数がイメージできない児童には、ブロックを提示して確かめられるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>□にあてはまるかずをいれて、<u>こたえが14</u>になるようにしましょう。</p> <p>① 9+□ ② 6+□ ③ 8+□ ④ □+7</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 課題がつかめている。〔関〕 答えが14になる数に着目して、考えようとしている 〔考〕
3 計算カードを使ってカード集めをする		<ul style="list-style-type: none"> 答えが14になる計算がまだあるか考えさせる。 できるだけ答えを見ないで、計算を声に出して言うように押さえておく。 	
		<ul style="list-style-type: none"> 答えに着目してカード集め 	

<p>○今まで勉強した計算を思い出しながら、式や答えを確かめていく。</p>	25	<ul style="list-style-type: none"> ・自力解決ができない児童やカード集めに時間がかかる児童には、「答えが11・12になる計算カードだけ」「ブロックを出してやってみよう」などの支援を個別にしていく。 ・カードが交錯してしまいそうな児童には、近くのできた児童にアドバイスさせて、計算カードをそろえて置けるようにしていく。 	をしようとしている。[表]																																																																								
<table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18</td> </tr> <tr> <td>$2+9$</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>$3+8$</td><td>$3+9$</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>$4+7$</td><td>$4+8$</td><td>$4+9$</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>$5+6$</td><td>$5+7$</td><td>$5+8$</td><td>$5+9$</td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>$6+5$</td><td>$6+6$</td><td>$6+7$</td><td>$6+8$</td><td>$6+9$</td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>$7+4$</td><td>$7+5$</td><td>$7+6$</td><td>$7+7$</td><td>$7+8$</td><td>$7+9$</td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>$8+3$</td><td>$8+4$</td><td>$8+5$</td><td>$8+6$</td><td>$8+7$</td><td>$8+8$</td><td>$8+9$</td><td></td> </tr> <tr> <td>$9+2$</td><td>$9+3$</td><td>$9+4$</td><td>$9+5$</td><td>$9+6$</td><td>$9+7$</td><td>$9+8$</td><td>$9+9$</td> </tr> </table>				11	12	13	14	15	16	17	18	$2+9$								$3+8$	$3+9$							$4+7$	$4+8$	$4+9$						$5+6$	$5+7$	$5+8$	$5+9$					$6+5$	$6+6$	$6+7$	$6+8$	$6+9$				$7+4$	$7+5$	$7+6$	$7+7$	$7+8$	$7+9$			$8+3$	$8+4$	$8+5$	$8+6$	$8+7$	$8+8$	$8+9$		$9+2$	$9+3$	$9+4$	$9+5$	$9+6$	$9+7$	$9+8$	$9+9$
11	12	13	14	15	16	17	18																																																																				
$2+9$																																																																											
$3+8$	$3+9$																																																																										
$4+7$	$4+8$	$4+9$																																																																									
$5+6$	$5+7$	$5+8$	$5+9$																																																																								
$6+5$	$6+6$	$6+7$	$6+8$	$6+9$																																																																							
$7+4$	$7+5$	$7+6$	$7+7$	$7+8$	$7+9$																																																																						
$8+3$	$8+4$	$8+5$	$8+6$	$8+7$	$8+8$	$8+9$																																																																					
$9+2$	$9+3$	$9+4$	$9+5$	$9+6$	$9+7$	$9+8$	$9+9$																																																																				
<p>○カード集めをして、気付いたことや不思議に思ったことなどを発表させる。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・答えによってカードの枚数に違いがあることに気付かせる。 ・児童の気付きや発見をできるだけ取り上げて認めるようにする。 	○答えとカードの枚数の違いに気付くことができる[考]																																																																								
<p>4 まとめ</p> <p>○答えによるカード集めができたら、ワークシートに書き写させる。</p> <p>○計算カードを答えごとに確かめ合わせながら、1つにまとめさせる。</p>	15	<ul style="list-style-type: none"> ・カード集めができた児童には、ワークシートにカードの式を書き写させ計算練習をさせる。 ・できるだけ、答えを見ないで、記入できるように声をかける。 ・本時の学習の確かめをしながら、カードをまとめさせることを支援する。 ・計算カードを使った学習に意欲を持たせるようにする。 	○くり上がりのある計算が確実にできる。[知]																																																																								



(3) まとめ

1年生には難しい課題だと思われたが、操作活動をすることにより理解できていた。数えたり操作したりして練習することが大切な低学年では、ブロックやカードを使った学習は、有効だった。また、作業には個人差もあるため、カードが並べやすいような画用紙の台紙も効果的だった。全員の児童が「できた」「おもしろい」という達成感が味わえたように思う。低学年のうちから数の規則性や数の並びの美しさに気付く目を養っていくという意味では有意義な授業だった。

(4) 今後の課題

アイテムは、低学年の段階では、どの段階まで取り組ませるかが課題となる。基本的な問題と発展的な課題については、教師側が単元や児童の実態に応じて、どの程度まで全体で取り組ませるか、どの程度まで説明が必要かなどを検討しておくことが必要になってくる。